



関善寺山門

目次

- 災害救急医療シミュレーション訓練 2～3
- ネットワーク
 - 木下医院 4
 - 松村内科クリニック 5
- 内科からのお知らせ 4～5
- 家庭でできる
リハビリテーション 6
家庭でできる膝の体操
- 検査の窓 7
心臓超音波検査について
- 話題の広場 7
いいだ人形劇フェスタ公演
喫煙について
- 皆様の声にお答えします 7
- ご案内 8
分娩料の改定について
- 職場紹介 8
救命救急センターの紹介
- 新任医師の紹介 8

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院 基本方針

- 1 私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- 2 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、地域の皆さんに開かれた病院づくりを行います
- 3 私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- 4 私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 5 私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します

一人でも多くの命を救うために

～災害救急医療シミュレーション訓練～

震度6弱の地震発生を想定 9/6 参加職員数219人



救急車が病院に到着



救急治療班による治療訓練



患者の状態を確認し、すばやく院内へ搬送



トリアージタグを使った患者重症度の判別訓練

訓練を終えて

---何を改善すべきか---

震度6弱の地震が発生したとの想定で大規模災害救急医療シミュレーション訓練が行われました。

今年は、模擬患者を昨年の17人から44人に増やし、患者役の職員の演技もあわせ実際の災害に近い状況を作りました。また、8月11日の駿河湾を震源地とする地震によりエレベータが停止したことを踏まえ、2階のICUと手術室を使用する場合の訓練として患者を担架で2階まで上げる訓練も行いました。

軽症者の対応については、昨年と同様に入り口近くのテント内でマニュアルに沿った訓練を行いました。

この訓練から感じたこと

- ◎中等症から重症の対応は、トリアージ、応急処置までは問題なく流れるようになった。
- ◎自院での治療か院外への搬送かを判断しなければならないという認識が定着した。
- ◎それぞれの情報を把握し、院内各部署間の調整や、院外搬送の調整を的確に行うことに関しては課題有り。さらなる工夫が必要である。

特に院内の各部署間及び院外への患者搬送等の調整は本部の仕事であり、毎年、本部機能を改善しなければいけないという反省があがっています。来年こそは、この点が改善されるようにマニュアルを見直そうと考えています。また、地域災害時の国や県の行動マニュアルが整備されてきていることや、他地域からの医療応援部隊（DMAT）の参加が始まっている事により、院外との「的確な情報のやりとりができる体制作り」と、「DMAT受け入れ時の対応」を考える必要があると思っています。

災害救急医療マニュアル担当 長 沼 邦 明



軽症治療班による治療訓練



救急医療本部に寄せられる情報をもとに対応を協議

主な班ごとの訓練反省事項

情報班 一人の患者さんに対して、情報班の一人が専属の担当となってしまうケースが多い。患者さんが次々と搬送されることを想定すると、情報班員を増員する必要がある。

救急処置班 重傷者が次々と搬送されてくると、その患者に付き添ったまま移動するケースもあり、次の患者受け入れのための処置班員が不足する。実際の災害時にはスムーズな処置が出来なかったり、患者がどんどん重症化してしまったときの対応が課題であると考えられる。

薬剤班 薬剤を処方された患者の動きと流れについて、軽症班は院内に入れられない運用となっているため、軽症患者は院外で待機してもらい、情報班が処方箋を薬剤科に届け、薬剤班が薬を患者に届けることとなる。実際の災害時、院外が混雑した時に該当患者に素早く薬を渡すことができるか心配である。そのため、待機場所を明確にしておく必要がある。

食糧班 コンピュータの使用不可で食札が打ち出せない場合、個々の患者の食事内容をどのように確認するのかについて、検討が必要である。



木下 医院

(喬木村阿島)



地域密着の医療

木下医院 院長 木下 俊英

私は日大医学部43回卒で、当時、小児外科の祖であった若林修教授の人柄に引かれ、第一外科に入局しました。日米安保条約に反対した全学連闘争が安田講堂占拠で国に鎮静された後でした。この教室で、小児外科、一般外科、麻酔を学んでいましたが、父の健康が優れないとのことで昭和49年に帰郷しました。そして、飯田橋外科病院に勤めながら家業を手伝ってきました。父の没後平成2年で飯田橋外科の勤務を辞め、平成3年から現在の医院で診療を開始、現在に至ります。喬木村は人口6800名ほど、高齢化率約30%の小村です

から地域密着型の診療です。従って急な往診、介護保険に関する書類が多く、中には悪性腫瘍あり、多科にわたって飯伊の病院、介護施設には大変お世話になっています。中でも飯田市立病院は地域完結型の総合病院であり、地域連携室を経由してスムーズに多くの患者さんをお願いすることができ、常に感謝している次第です。詳細に書かれた返書を提供して下さる診療科には小生にとって勉強になり有り難く思っています。医療療養病床の削減、特別養護老人ホームなどの不足で自宅療養を余議なくされている寝たきり老人の

療養を、家族(お嫁さん)と訪問看護師の方々に支えていただき実施している現状です。日々の診療には自分の守備範囲を厳しく守り、実践しているつもりです。今後とも宜しくお願い申し上げます。



木下先生

- 所在地** 〒395-1101 下伊那郡喬木村3255
☎0265-33-2023
- 診療科目** 内科 外科 皮膚科 泌尿器科 こう門科
- 受付時間** 8:30~12:30 14:00~17:30
- 往診** 可
- 休診** 木・土曜日午後、日曜・祝日
- 駐車場** 有



内科からのおしらせ



佐々木教授

毎週木曜日に、埼玉医科大学国際医療センターの佐々木康綱教授による腫瘍内科外来を実施しています。腫瘍内科では患者さんやご家族を対象に、最新の治療情報や標準的治療をもとに、がんの化学療法などの相談や診察を行っています。

セカンドオピニオン外来も実施しておりますので、ご希望の方は、地域医療総合連携室(内線2213)までお問い合わせください。

セカンドオピニオンとは
診断や治療方針の説明を受けたがどうしても良いか悩んでいるとき、また他に治療法はないか、このような場合に主治医以外の医師の中立的な立場での意見(第2の意見)を聞いて、ご自身で納得して治療を選択し受けるための参考にすることをいいます。

登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

松村内科クリニック

(飯田市松尾代田)



地域医療の為に強い絆の病診連携を

松村内科クリニック 院長 松村 武志

こんにちは、私は松村内科クリニック院長松村武志と申します。早いもので当地に開業してから14年目を迎える事になりました。開院当時は患者様が来院してくれるかどうかハラハラドキドキの連続でしたが、幸いにも患者様も少しずつ増加し毎日の診療に追われながら仕事をしている次第です。私は昭和52年に山口大学医学部を卒業と同時に佐久総合病院、北信総合病院にて研修を終え、生れ故郷の飯田に戻り、飯田病院にて約14年間程御世話になりました。この間多くの立派な先輩に恵まれ非常に果報者と思っております。諸先輩方から私が学んだ事は、①まず診療室に入室する患者様の御様子(歩行の具合、顔の表情)

をよく観察する事。②丁寧に患者様の訴えを聴き取る事。③患者様の様子を見ながら、聴診、丁寧に触診を決しておるそかにしないで言うという事でした。又必ず丁寧に結果の説明も決して省略してはいけないという事を、時には叱られながら行ったものでした。現在でも必ず自分の診察に不備がないかどうかの自問自答の毎日です。

当院では、内視鏡検査もかなり実施しておりますがいかに苦痛を与えないか、恐怖感を与えないかを心がけて実施しています。この結果胃癌、大腸癌などをはじめ、悪性腫瘍の患者様、ポリプ切除術の後出血の患者様又神経内科系の患者様、又高度の技術的なX線検査の必要な

患者様等市立病院の先生方には非常に御世話になっております。急患の方など電話一本で気軽に引き受けて頂きまして、とても感謝しております事を、この場をお借り致しまして御礼を申し上げると共に今後もより強い絆で病診連携が行われる事を、切に祈りながらこの辺で筆を置きたいと思っております。



松村先生

所在地 〒395-0812 飯田市松尾代田1603-2

☎0265-23-6822

診療科目 内科 消化器科 循環器科 小児科

受付時間 9:00~12:00、15:00~18:30

往診 可

休診 水曜日、日曜・祝日

駐車場 有



患者様

患者さん及びご家族

患者さんご本人がある程度病状を理解されていることが重要です。

具体的な相談内容

◎がんと診断されたが治療法はあるのか。また、どのような治療が受けられるのか。

◎手術と化学療法のどちらを選べばよいのか。

◎今まで受けてきた治療の評価と今後の方針は？

◎日常生活の中での注意点は？



地域の医療従事者を対象とした勉強会で講義を行う佐々木教授

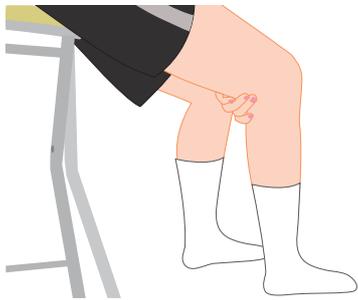
家庭でできる膝の体操

膝が痛い方は多いと思います。

膝の変形やスポーツによる外傷等、痛みの原因となるものは多くあります。
今回は、膝の筋力低下や変形性膝関節症の方が簡単に家庭でできる膝の体操を紹介します。

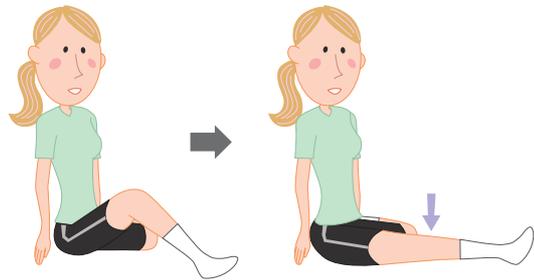
1 膝裏のマッサージ

- やわらかくするイメージでもんでみましょう。



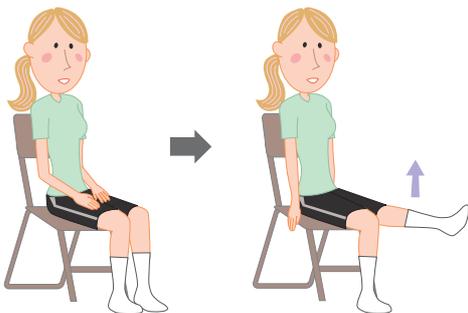
2 膝のストレッチ

- ゆっくり伸びるところまで行いましょう。



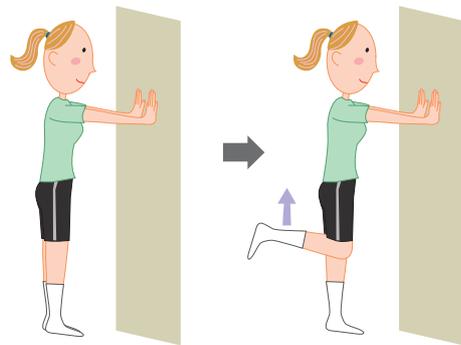
3 膝を伸ばす(筋トレ)

- 伸ばして5秒止めましょう。
- 伸ばしたり、曲げたりでも効果があります。

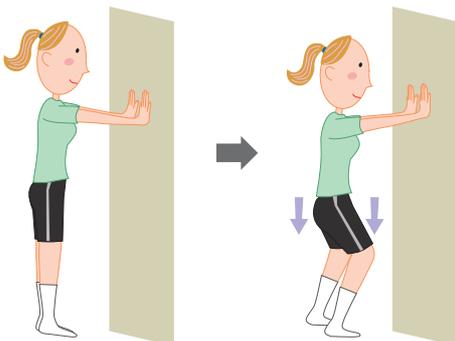


4 膝を曲げる(筋トレ)

- バランスをとるためにつかまってやりましょう。



5 スクワット(痛みと変形が無い人にオススメ)



- 注 痛みの強い方は無理をしないで下さい。
- 注 毎日、少しずつ続けましょう。1日10回程度から始めましょう。
- 注 膝の変形、痛みの強い方は、できるものを選択して行いましょう。

検査の窓

その13



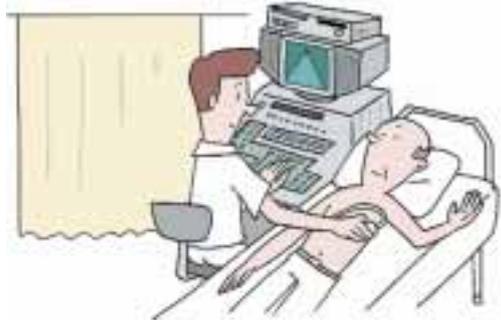
心臓超音波検査について

心臓超音波検査（心エコー図検査）は、人間の耳では聞こえない高周波の音（超音波）を利用して、身体の表面から、絶えず働いている心臓の動きが見ることのできる数少ない検査です。

最新の心エコー機では、非常にきれいに心臓の様子を観察することができます。

心臓の大きさ、動き、弁の状態、血液の流れなどを観察し、心臓が「全身に血液を送るポンプ」として正常に働いているかを判定します。心エコー検査は、心臓病の診断、治療方法の選択、治療効果の判定に大いに役立っています。

検査時間は短ければ15分程で済み、安全で（超音波は人体に無害）、かつ痛みもない検査です。



いいだ人形劇フェスタ公演

～昨年を上回る観劇者を迎え賑やかに～

8/8(土)

正面玄関ホールにおいて人形劇フェスタ公演が開催されました。上演劇団は「劇団むう」で、昨年を上回る140名余のご来場をいただきました。演目の「おこんじょうり」は55分の大作でしたが、子供たちもみな演技に引き込まれ、最後まで楽しむことができました。



喫煙について

～喫煙による健康への影響を考える～

9/10(木)

コスモス会（糖尿病の患者会）に入会されている患者さんを対象に糖尿病教室を開催しました。今回のテーマは「喫煙について」でした。病院職員で喫煙に関する寸劇を行い、小林睦博医師による講義を受けました。「タバコは動脈硬化を招きやすく心筋梗塞になり易い。肺がん、喘息のリスクも高くなるので禁煙に心がけましょう」と提言がありました。



皆様の声にお答えします



バス停の待合室にある時刻表が病院内にあると確認がしやすくなり、患者としてありがたいのですが。



中央受付の掲示板にバスと電車の時刻表を掲示してありますが、特にバスの時刻表は文字や数字が小さいため、見づらいことと思われます。バス停の待合室にある時刻表はバスの運行機関が作成して掲示するため、同じものを設置することはできませんが、それを参考にして、できるだけ分かり易い時刻表を掲示するようにいたします。



ご案内

分娩料の改定について

10月1日より、飯田市立病院における分娩料および帝王切開介助料が次のとおり改定されました。

分娩料（正常分娩 単胎）

区分	改定前	改定後
平日	170,000円	210,000円
時間外	188,000円	233,000円
休日及び深夜	205,000円	255,000円

帝王切開介助料

	改定前	改定後
単胎	130,000円	159,000円

※双胎以上の金額についてはお問い合わせください。

なお、これにより分娩料、入院料、食事負担額等を含めた標準的な出産費用は、正常分娩（単体）の場合46万円（従来42万円）となります。ただし、出産育児一時金が10月から42万円（従来38万円）に引き上げられましたので、実際の負担増加額はあまり変わりません。

今後も、子どもを生み育てやすい環境の充実に向けて取り組んでまいりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

問い合わせ 医事課入院係 電話0265-21-1255 内線2150

シリーズ ● 職場紹介 ● その22

【救命救急センターの紹介】

長野県の医療確保対策により南信全域では3箇所の新型救命救急センターが配置されました。その1施設として飯田市立病院は平成18年10月から新型救命救急センターの運営を開始しています。昨年のヘリ搬送は49件、救急車での搬送は2730人と、飯田下伊那の救急搬送の約半数が当院に運ばれています。

救命救急センターは1階の救急外来、2階の救急ICU2床、3階の救急病棟8床で運営してい

ます。看護師は救急外来と病棟の19名で活動しています。救命救急センターの看護師は、患者さんの緊急度・重症度に応じた適切な対応を行い、安全かつ安心して診療を受けられるよう支援しています。

当院は災害拠点病院に指定され、DMAT（災害派遣医療チーム）を2チーム有しており大地震、大事故などに備え、訓練を行っています。またICLS（心肺蘇生研修）、JPTEC（病院前外傷初療研修）などの研修を受講後インストラクター資格を修得し、県内外へ出かけ救急初療の教育指導を

行うとともに、飯田女子短期大学の講習会への協力、公民館で熱中症の講演を行うなど地域の救急処置の普及に努めています。

今後も、二次医療圏（飯田下伊那地域）の災害拠点病院や救命救急センターとして、地域における医療・看護の連携を強化し、救急領域における看護の専門性を発揮します。



あ と が き

4月から市立病院勤務となり早半年が過ぎました。慣れない仕事にまだまだ右往左往する中、院内にはたくさんの癒しの空間があることに最近気が付きました。定期的に絵画や写真などの芸術作品が飾られる1階中央スペース。院内学級で学んでいる子どもたちの書画が掲示されている4階共用スペース。などなど。どれも力作ぞろい。ほっと一息させられることもしばしば。皆さんも、院内で気軽に芸術の秋を堪能してみたいはいかがでしょうか。

編集委員 城下一弘

新任医師の紹介

平成21年7月～9月



形成外科
菅谷 文彦
(すがや ふみひこ)
平成14年卒業
平成21年7月1日着任
前勤務病院
信州大学医学部附属病院



整形外科
松葉 友幸
(まつば ともゆき)
平成18年卒業
平成21年7月1日着任
前勤務病院
信州大学医学部附属病院